

【氏名】北 蕾

【所属大学院】

早稲田大学大学院

【研究題目】

中国東北部における私営企業家の創業スタイル:「関係」構築のエスノグラフィー

【研究目的】

かつて国有経済によって支えられた中国の東北地域では近年、国有経済のシェアが低下する一方で、非国有経済のウェイトが高くなりつつある。中でも、機械加工技術を基盤とした私営企業の発展にはめざましいものがあり、その成功要因に関する研究成果も出されつつある。

筆者は 2005 年、私営企業の成長を支える企業内の中核マネージャーに焦点を合わせて、かれらの私営企業における機能に関する実証調査をおこない、修士論文を完成させた。実証調査から、東北地域の私営企業は企業内の重要なポジションを家族や血縁関係のある人に任せず、積極的に外部の人材を導入し、現代企業制度に近い組織構造を備えていることがわかった。

しかし、なぜ東北地域の私営企業は、起業と同時に外部の人材を信用し、彼らを活用することができるのか、なぜ技術を重視した創業意識が調査対象企業に共通する概念として認識されるようになったのか、これらの問いに答えるために、こうした企業を起こした企業家に着目し、彼らの創業スタイルに注目するようになった。それを明らかにすることは、本研究の目的である。

【研究の内容・方法】

研究は以下のように展開されていた。まず、企業家のパーソナリディーな特徴に注目し、彼らの創業スタイルとの相関関係を分析しようとした。現在の中国では企業家を新たな階層として見なされている。彼らのもつ社会的な資本であれ、経済的な資本あるいは文化的な資本であれ、事業の成功につながるとされる。では、東北地域の企業家たちはどのようなパーソナリディー特徴をもつのか、以上の3つの変数に絞って見てみた。次に、企業家たちの置かれた客観的な創業環境を取り上げた。中国私営企業の発展は地域的な特性をもっている。南沿海地域で発展した私営企業は早い段階で成果を見せたが、低付加価値の加工業からスタートした創業スタイルが共通である。それに対して、東北地域における私営企業の発展は国有企業の構造改革が始まってから本格的に発足したので、南沿海地域と比べれば遅れそうに見えるが、発展地域で蓄積された経験と都市部で蓄積された産業資源、人材資源を活かせば、高いスタート点に立たされると考えられる。したがって、客観的な創業環境を把握することによって、彼らの創業スタイルの形成を理解することができる。

最後に考察したのは、彼らの価値観は創業スタイルの形成に与える影響とその経営効果である。つまり、彼らの管理・経営理念と創業精神はいかに企業運営の過程で反映されているか。

企業内の従業員は彼らの管理経営にどのような考えを持っているかに対する考察である。

この作業を通して、東北地域における私営企業家の創業文化の特徴を掘り起したいのである。

具体的な調査手法は企業家を対象にしたインタビュー調査、と従業員を対象にした質問票調査を用いた。質問内容としては、前者については①どういうきっかけで会社を起こしたのか、②どのように会社を起こしたのか、③企業経営に何を重視し、どのように経営資本を獲得するのか、④部下をどの程度信頼しているか、などの質問を中心にして聞いた。

従業員については①どういうきっかけで入社したのか、②今の会社は以前のと比べれば満足しているのか、③企業主の経営理念を理解できるのか、④勤務先でどのように能力を発揮しているか、⑤企業主との信頼関係をどのように思っているか、それに満足しているかどうか、などの質問を質問調査票によって聞いた。

【結論・考察】

調査結果の分析は今やっている最中であるが、現段階で明らかな事実が以下のようなものである。

つまり、起業した人々の多くは旧国有企業の責任者や管理者であり、彼らには国有企業構造改革の結果、企業のオーナーになった人が多い。それによって、彼らは創業する過程で、旧国有企業で身につけた技術や経験、ネットワークを背景に、市場経済に積極的に適応していく一方で、経営方針を構築する際に、旧来の国有企業の人的な資源をうまく活用しているユニークな創業スタイルが見られた。

この調査結果は 2008 年 6 月にブタペストで開かれる International Institute of Sociology の第 38 回世界大会で発表された。 (“The Utility of the Conventional and the Rational in Chinese Human Resource Management and Industrial Relations: Effectiveness of “Mixed Blood” Practices”)